

第6回 今治市中心市街地創生デザイン会議

令和6年11月29日（金） 13：30～

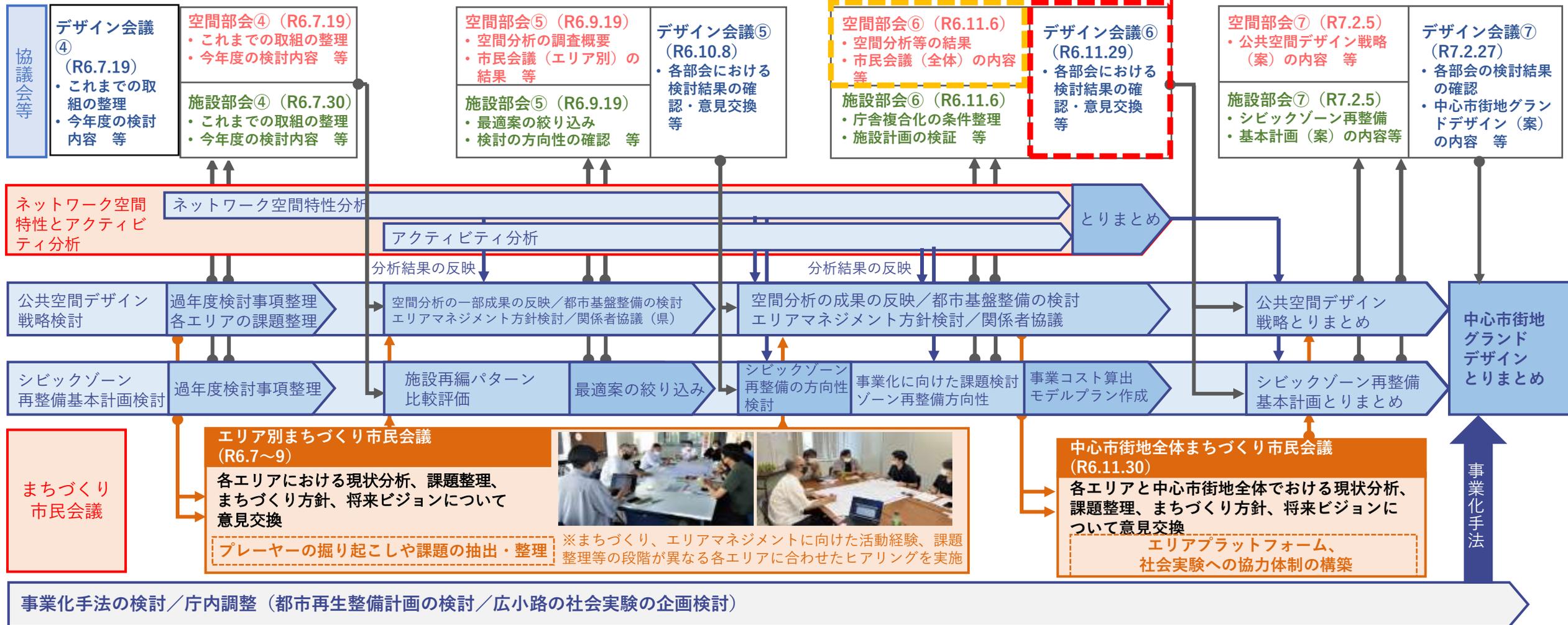
『今治市中心市街地ランドデザイン』の策定に向けて

1. 第5回デザイン会議の振り返りと本日の検討事項
2. 【第6回公共空間再編部会】における検討内容
 - (1) ネットワーク空間特性とアクティビティ分析の結果
 - (2) 分析結果を踏まえた『公共空間デザイン戦略（素案）』
 - (3) 広小路整備に向けたパターン検討
3. 【公共施設等再編部会】における検討内容
 - (1) 現在の検討状況の報告
4. 今後のスケジュール

1. 第5回デザイン会議の振り返りと本日の検討事項

報告 ※第6回施設部会は開催を行わず個別協議を実施中

本日



(1) 広小路整備に向けた条件整理

- ① これまでの意見を踏まえた広小路の位置づけの整理
- ② 道路空間再配分を伴う空間整備の事例
- ③ 広小路におけるグリーンインフラ導入のイメージ



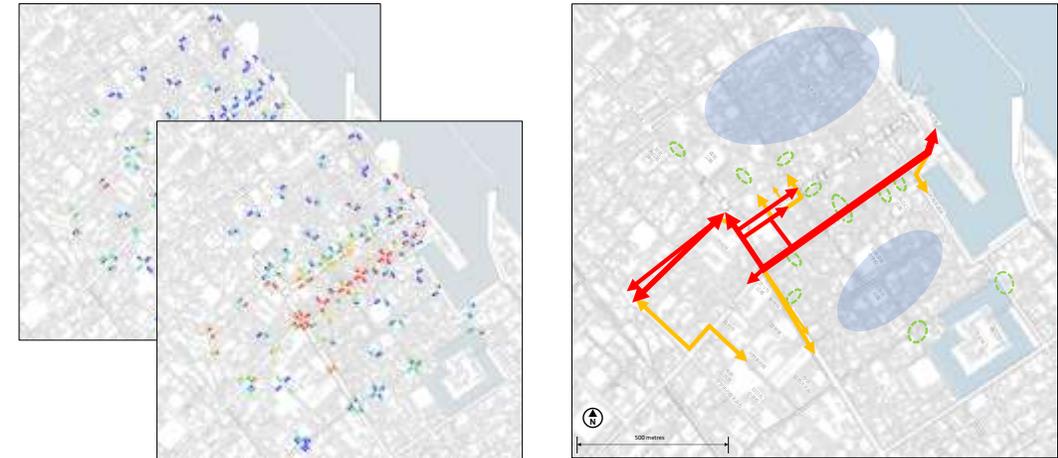
(2) エリア別まちづくり市民会議の開催結果

- ① エリア別ヒアリング（美保町～北浜エリア、今治城周辺エリア）
- ② エリアプラットフォームの設立に向けた検討



(3) ネットワーク空間特性とアクティビティ分析の結果 (速報版)

- ① アクティビティ分析の調査概要
- ② 歩行者量分布調査（ゲートカウント）の結果（速報値）



(1) 最適案の絞り込み

候補地 B（県地方局今治支局 及び 河野美術館敷地）を最適地として設定

設定理由

- ① シビックゾーンの中心に配置
- ② ネウボラ拠点施設整備予定地と隣接
- ③ 市と県の共通課題の解決に寄与



(2) 最適案の具現化に向けた検討の方向性

- ① 基本的な考え方
- ② 土地の整備要件
- ③ 建替えのスキーム
- ④ シビックゾーン内のオープンスペースの創出



項目	意見要旨
<p>エリア別 まちづくり 市民会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街の魅力づくりに資するような動きはあるのか。➡商店街において、貸出可能な物件や物件の情報をとりまとめているところである。➡外から出店者を呼び込むには、グランドデザインで今治は変わろうとしているというメッセージを発信していく必要があると感じた。 • エリアプラットフォームについては、不動産と連動していくという案は大事になる。三津浜では、大家さんと移住して家を借りたい人をつなぐミツハマルという中間支援組織があり、プラットフォームの中に不動産を扱える機能があると前に進んでいくのではないかと感じた。
<p>シビック ゾーン (複合庁舎)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 複合庁舎の検討は候補地Bで進めていくのか。➡今治市として候補地Bが最適ではないかと判断している。一方で、候補地の敷地は市所有の河野美術館のほか、愛媛県東予地方局今治支局の土地でもあるため、引き続き関係者協議を進めていきたい。 • 候補地別の比較検討結果をみると、候補地Bにも「△」の判定がある。総合的に判断すると候補地Cの方がよいのではないかと感じた。➡「△」の判定は、今治市の施設である河野美術館が長期間閉鎖されることによるものであり、市内部で解決できる問題と認識している。一方、候補地Bは「◎」の判定も3項目あり、中心市街地まちづくり計画の方針に最も合致していることから、候補地Bが最適であるという判断に至っている。 • 愛媛県の反応はどのようなものか。➡まずは候補地Bが最適であるという市の考えを示し、その後、具体的な協議を進めていく予定である。 • 候補地Bまで歩いてもらえるウォークブルな空間にするためには、知恵だしが必要だと思った。一方で、人の動きやネウボラ拠点施設との連携、費用対効果等を踏まえるとシビックゾーンの中心にする必要があると思う。

項目	意見要旨
シビックゾーン (複合庁舎)	<ul style="list-style-type: none">河野美術館が長期閉館になる間の所蔵品をどうするかを検討する必要がある。複合施設にした後、今の庁舎はどうなるのか。→候補地Bを最適地にした場合、最初に行くことは河野美術館の解体になるため、所蔵品を既存の美術館に分散して収蔵することを検討している。また、建物自体も丹下建築で価値があるため、河野美術館の代替機能を持たせた美術館として使っていきたいと考えている。いずれの候補地においても、しっかりと将来像と戦略に沿うような公共施設の配置にしないといけないと思う。まちなかの滞留性が高まる方向と公共施設の配置が連動していくことがとても大事であるため、引き続き人の動きの分析をしていただくことが大事だと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none">海事都市交流委員会から市に対して要望があったが、連携や情報共有はされるのか。→海事都市交流委員会からは、港周辺の賑わい創出と大型の国際展示場、MICE建設の要望が出ている。具体的な整備の方向性などは、これから検討が進んでいくと考えている。

◎本日の検討事項

第6回公共空間再編部会/公共施設等再編部会で検討されている内容を報告

●第6回公共空間再編部会の検討内容

- (1) ネットワーク空間特性とアクティビティ分析の結果
- (2) 分析結果を踏まえた『公共空間デザイン戦略（素案）』
- (3) 広小路整備に向けたパターン検討

●公共施設等再編部会の検討内容

- (1) 現在の検討状況の報告

→それぞれの立場からご意見をいただきたい

2. 【第6回公共空間再編部会】の検討内容

- (1) ネットワーク空間特性とアクティビティ分析の結果
- (2) 分析結果を踏まえた『公共空間デザイン戦略（素案）』
- (3) 広小路整備に向けたパターン検討

(1) ネットワーク空間特性とアクティビティ分析の結果

※別紙参照

(2) 分析結果を踏まえた『公共空間デザイン戦略（素案）』

【全体方針】

現在の回遊動線や滞留行動の集中する場所（＝拠点）を活かし、広げていく
回遊行動の展開や新たな拠点づくり

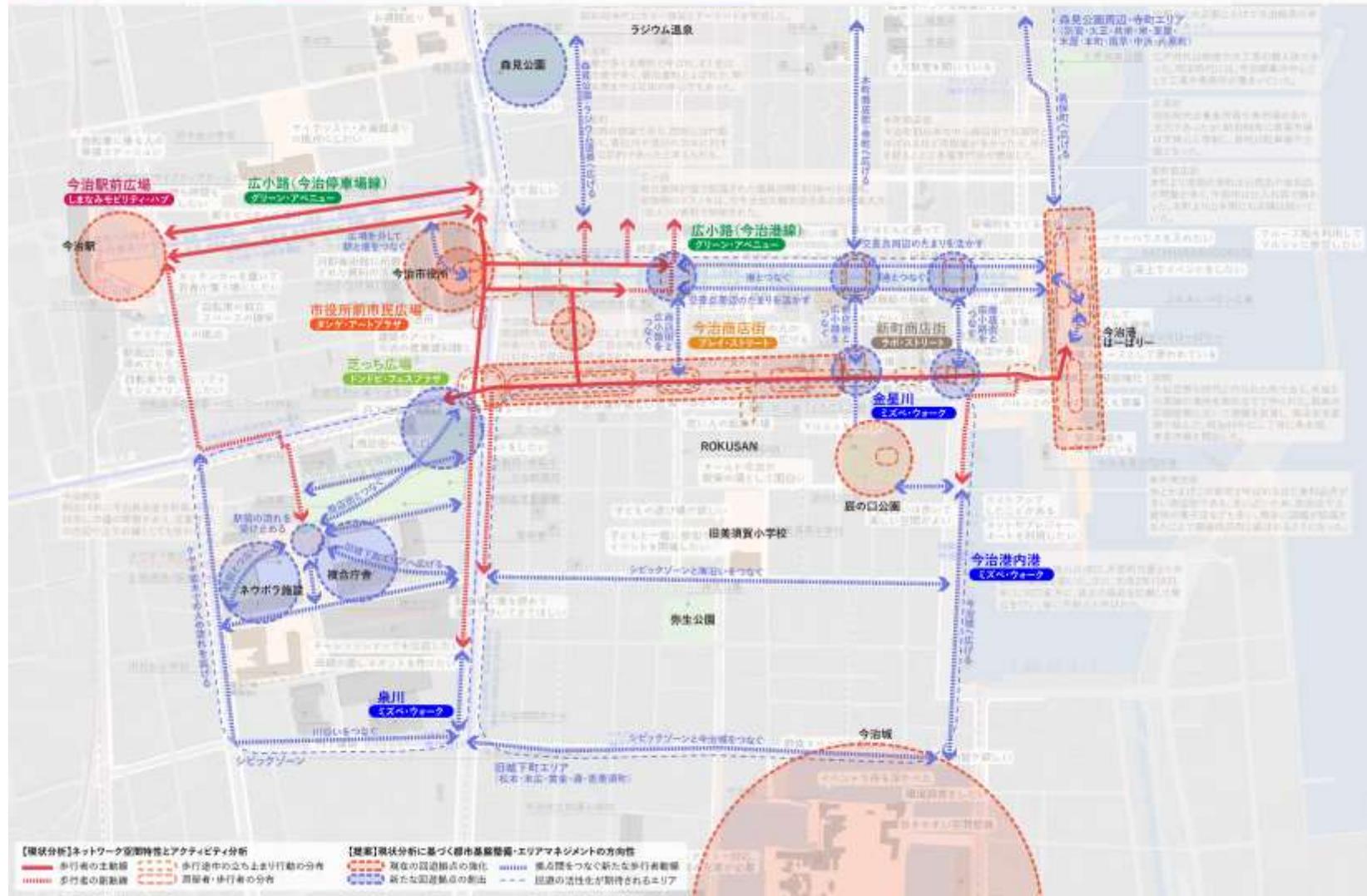
- 歩行者の回遊・滞留の見られる港周辺から広小路（今治港線）、商店街、内港を介して歩行者の回遊動線を広げていく
- 駅からシビックゾーンへの人の流れや芝っち広場を活かしシビックゾーンの整備を中心市街地の回遊性向上につなげる
- 市役所周辺、今治商店街入口など、現在歩行者の回遊・滞留の見られる場所から、周辺へと歩行者の回遊動線を広げていく
- 広小路、商店街などもポイントごとの人の滞留をいかし、人の流れをつないでいける整備・活用を検討する

【現状分析】ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

- 歩行者の主動線
- 歩行者の副動線
- 歩行途中の立ち止まり行動の分布
- 滞留者・歩行者の分布

【提案】現状分析に基づく都市基盤整備・エリアマネジメントの方向性

- 現在の回遊拠点の強化
- 新たな回遊拠点の創出
- 拠点間をつなぐ新たな歩行者動線
- 回遊の活性化が期待されるエリア



【1】 港の賑わいをまちの日常へ広げる軸をつくる

広小路（今治港線）

- 市役所側で途切れている歩行者の回遊を港までつなぐ空間づくり・活用を検討
- 現在の交差点周辺のたまりを活かして、商店街と広小路をつなぐ拠点づくりを進める

今治商店街

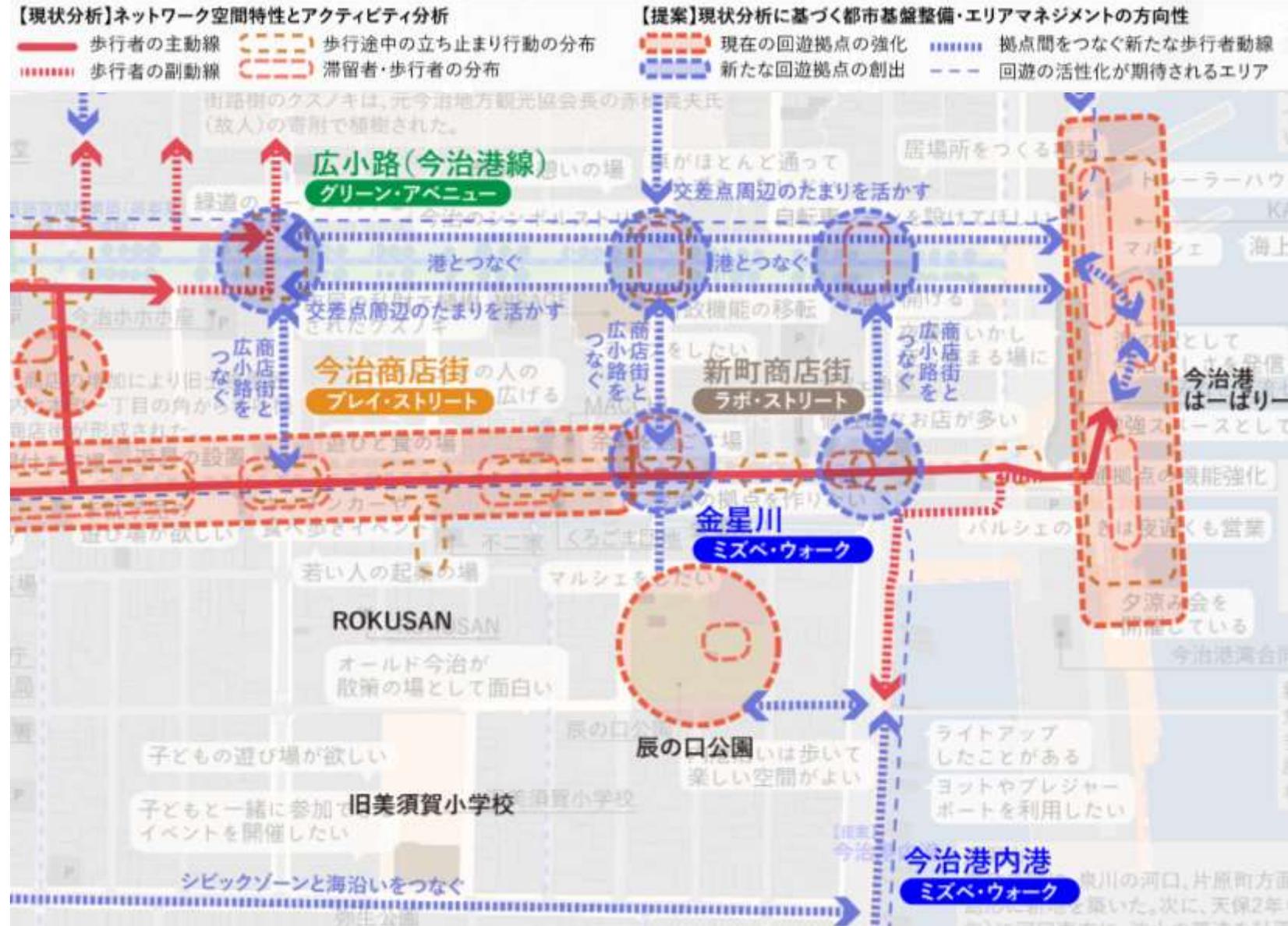
- 市役所側にみられる歩行者の回遊・滞留を港までつなぐ空間づくり・活用を検討
- 商店への来訪や滞留をいかして広小路整備との連携を検討する

新町商店街

- 今治商店街と港の人の動き・賑わいをつなぐ空間として検討する
- 広小路、辰の口公園、内港とのつながりをつくる拠点としても重要な位置づけである

今治港内港

- 港から今治城へと回遊行動をつなぐ歩行者空間として強化していく



【2】まち点在する回遊拠点をつなぐネットワークを強化する

今治駅前広場

- まちの交通拠点、滞留・回遊の拠点としての空間形成・活用を検討する

広小路（今治停車場線）

- 現在の駅と市役所間の歩行者の回遊行動を強化し、滞留・活動の場として検討する

市役所前市民広場

- 現状の市役所周辺の人の流れ、溜まりを強化し、港とまちをつなぐ拠点として検討する
- 広場を介して港～広小路と、駅前通り～駅をつなぐ拠点形成・動線のつながりを検討

芝っち広場

- 商店街周辺の歩行者の回遊行動を活かして、滞留・活動の拠点として検討する
- 商店街からネウボラ施設・複合庁舎へ向かう人の流れをつくる拠点として検討する

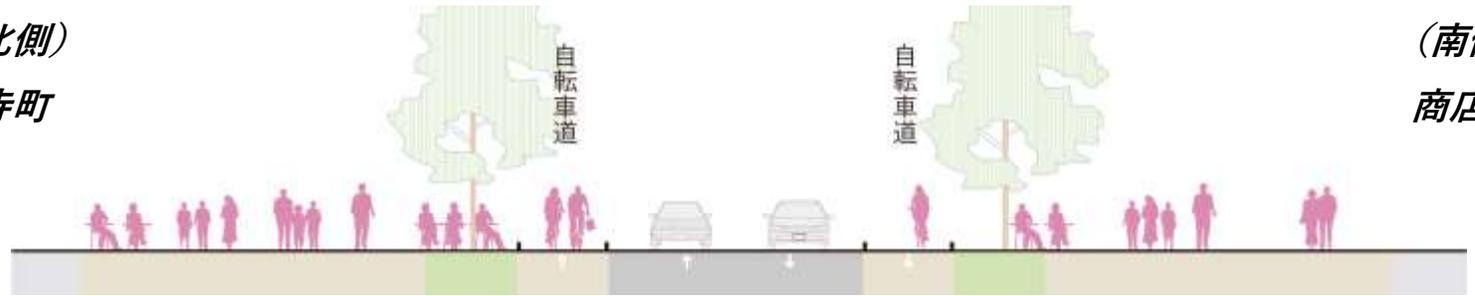


(3) 広小路整備に向けたパターン検討

(北側)
寺町

(南側)
商店街

【A】 両側歩道拡幅案



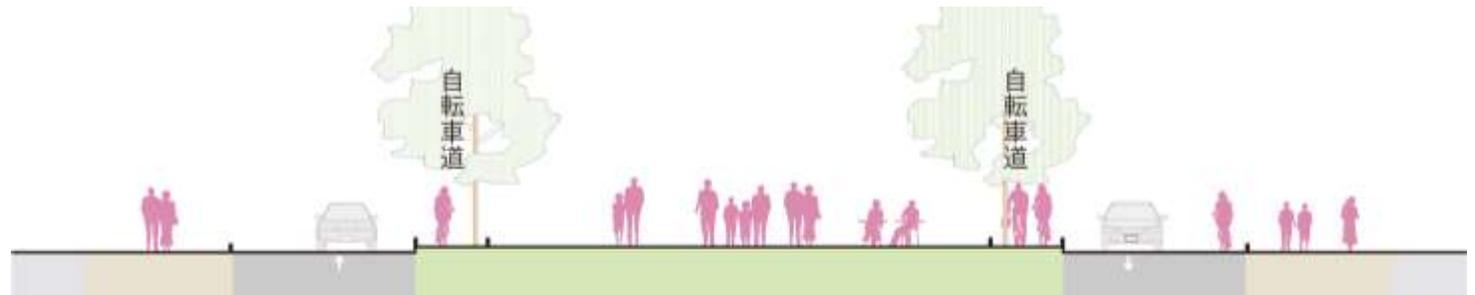
【B】 南側歩道拡幅案



【C】 北側歩道拡幅案



【D】 中央緑道案



整備パターンA～D案について①まちづくり、②交通、③環境形成・防災の観点から評価

比較評価		
まちづくり	シンボル性	広場と港をつなぐ都市軸としてシンボルとなる景観を形成する
	活動・活用のしやすさ	道路空間再配分により生まれる歩道・広場の利活用のしやすさ 周辺の関係主体（商店街など）との連携のしやすさ
	沿道・周辺エリアへの波及効果	歩道・広場の利活用により都市活動が活発になった場合、 周辺エリアへの回遊や賑わいの波及効果が期待できるか
	歴史・思想の継承	丹下健三の市民広場の構想、市民の寄贈により植樹されたクスノキ並木の保全活用
交通	安全性／交差点処理	歩道・広場での安全性の確保 道路空間再配分に伴い変わる交差点処理
	自転車走行環境	自転車道または自転車レーンの確保など、日常の移動手段としての自転車の利用のしやすさ
環境形成・防災	グリーンインフラ	既存樹木の保全、グリーンインフラ導入の可能性（浸水対策）
	緊急輸送道路	万が一建物が倒壊した場合に、緊急輸送道路としての機能維持が可能か ※沿道建物の耐震化と連携した取り組みが必要 ※位置づけについて要確認

【A】両側歩道拡幅案

- ・ 車道7.0m(3.5m×2) / 自転車道5.0m (2.5m×2) / 北側歩道12.0m / 南側歩道12.0m
- ・ 既存の2列のクスノキ並木は、北側・南側歩道内に位置
- ・ 現況と同じく左右対称の幅員構成
広幅員の両側歩道により広場と港をつなぐ

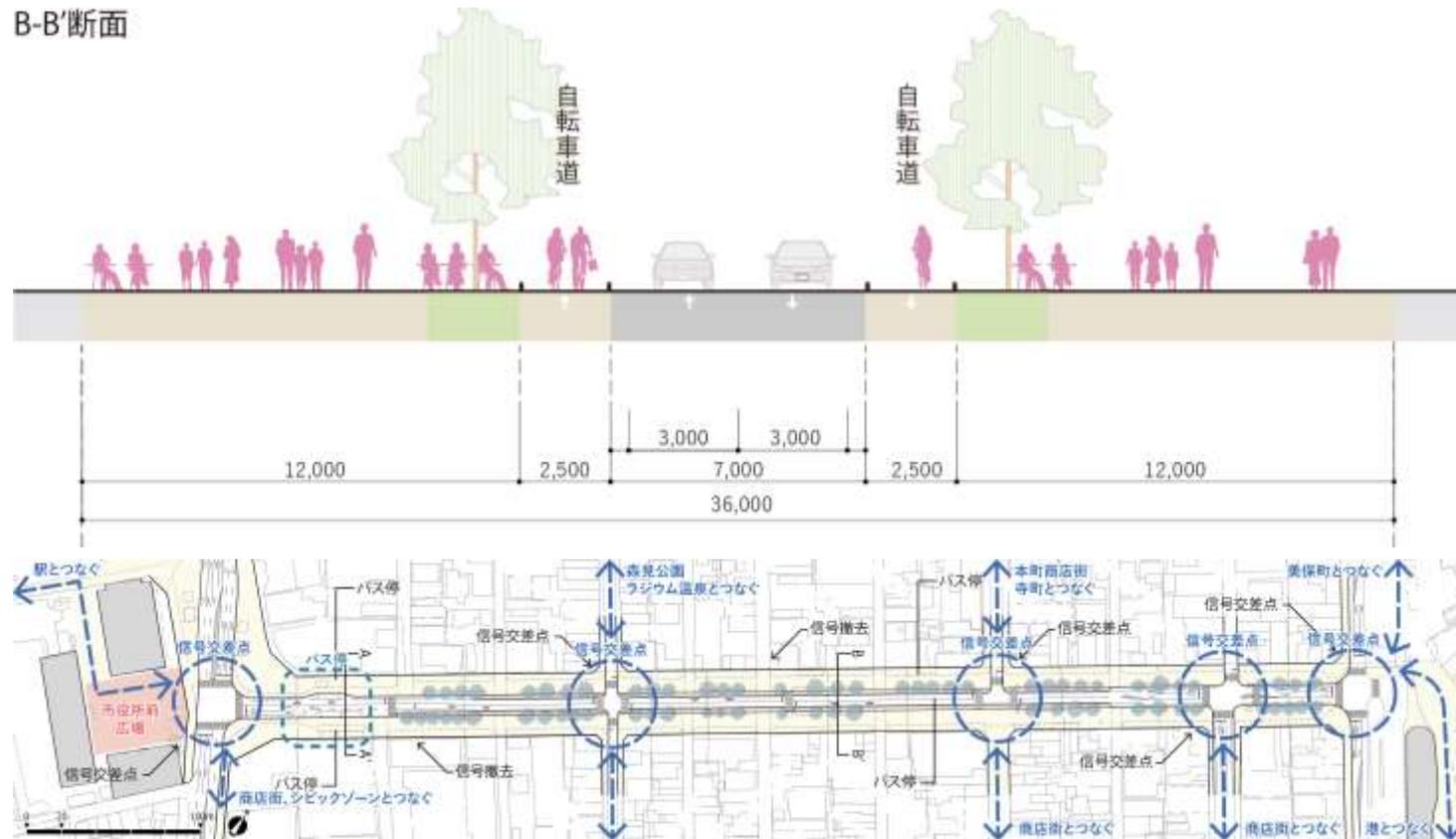
参考事例 花園町通り (愛媛県松山市)



引用： <https://www.g-mark.org/gallery/winners/9dfbcdd3-803d-11ed-af7e-0242ac130002>

比較評価		参考	
まちづくり	シンボル性	○	広幅員の歩道で広場と港をつなぐ
	活動・活用のしやすさ	◎	南北それぞれに幅員12mの歩道があり、沿道と一体で活用が可能
	沿道・周辺エリアへの波及効果	○	沿道建物の前の歩道が広くなり、活動が展開すれば波及効果が高い
	歴史・思想の継承	○	既存樹を生かした広幅員の歩道で広場と港をつなぐ
交通	安全性／交差点処理	○	歩車道境界に緑の境界 交差点がコンパクトになる
	自転車走行環境	○	車道両側に自転車道を確保
環境形成・防災	グリーンインフラ	○	幅員12mの歩道に分かれて設置 通行・滞留機能との両立が必要
	緊急輸送道路	◎	車道が中央部に位置し建物との 離隔が取れるため、建物倒壊時 にも機能が維持できる可能性が 高い

B-B'断面



【B】南側歩道拡幅案

- ・ 車道12.0m(自転車レーン5.0m(2.5m×2)含む) / 植栽帯2.0m / 北側歩道4.0m / 南側歩道18.0m
- ・ 既存の2列のクスノキ並木のうち、北側は植栽帯、南側は歩道内に位置
- ・ 南側に歩道幅員を偏心させる構成
広幅員の南側歩道を中心として広場と港をつなぐ

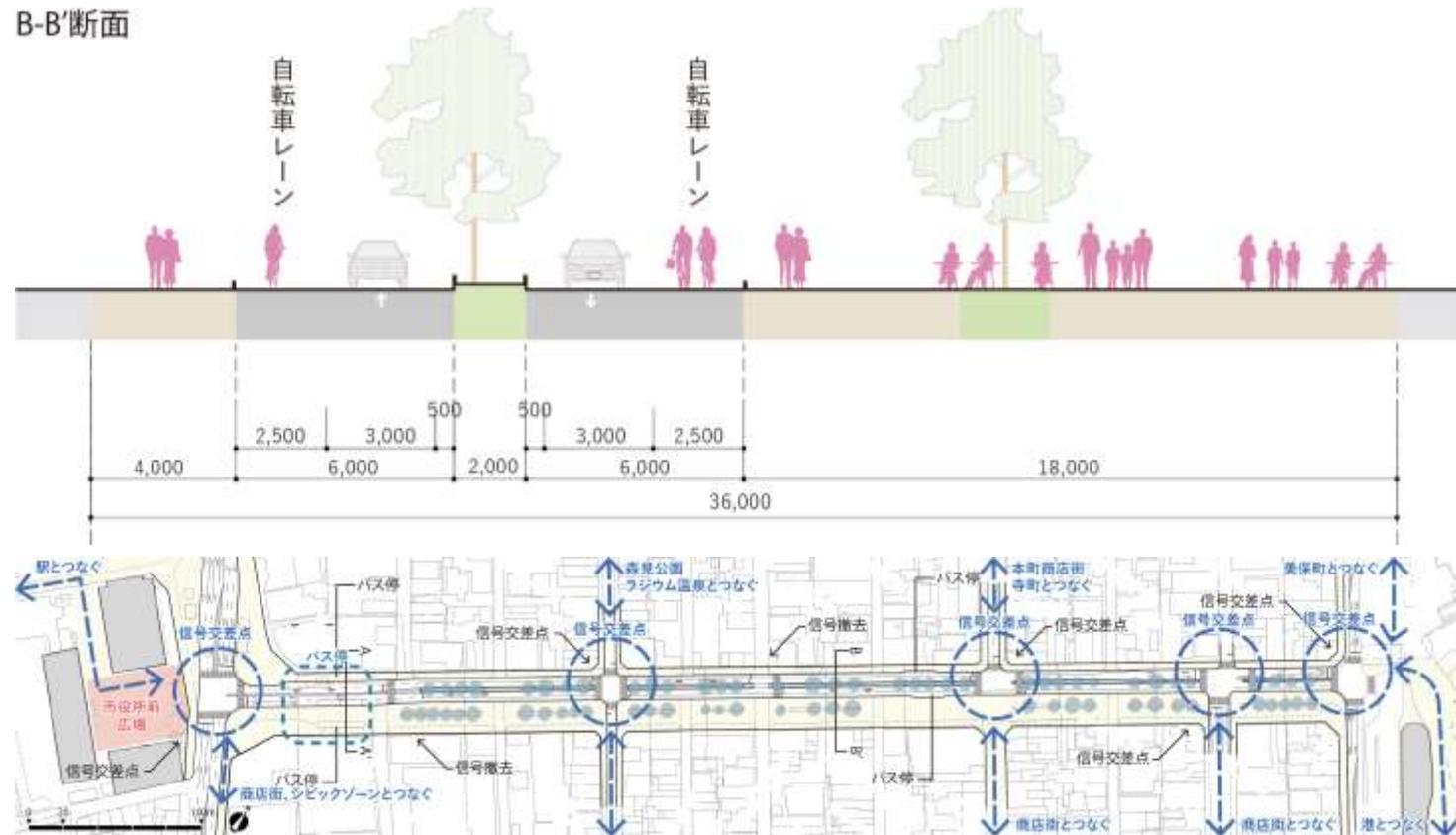
参考事例 中央通り (三重県四日市市)



引用：https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1684824663845/simple/gaiyouban.pdf

比較評価		参考	
まちづくり	シンボル性	△	偏心した道路構成のため、シンボル性を演出する工夫が必要
	活動・活用のしやすさ	○	南側に幅員18mの広幅員の歩道商店街と連携した活用が可能
	沿道・周辺エリアへの波及効果	○	南側の沿道建物の前の歩道が広くなり、一体的な利活用ができれば商店街への波及効果が高い
	歴史・思想の継承	△	既存樹を生かしているものの、偏心した道路構成により市民広場とは正対しない
交通	安全性／交差点処理	○	南側の広幅員歩道で安全性確保交差点がコンパクトになる
	自転車走行環境	△	自転車レーンを確保可能
環境形成・防災	グリーンインフラ	○	幅員18mの南側歩道にまとめて設置、通行・滞留機能との両立が必要
	緊急輸送道路	△	道路構成の偏心により車道と北側の建物との離隔がとりづらく、建物倒壊時の機能維持が懸念

B-B'断面



【C】北側歩道拡幅案

- ・ 車道12.0m(自転車レーン5.0m(2.5m×2)含む) / 植栽帯2.0m / 北側歩道18.0m / 南側歩道4.0m
- ・ 既存の2列のクスノキ並木のうち、北側は歩道内、南側は植栽帯に位置
- ・ 北側に歩道幅員を偏心させる構成
広幅員の北側歩道を中心として広場と港をつなぐ

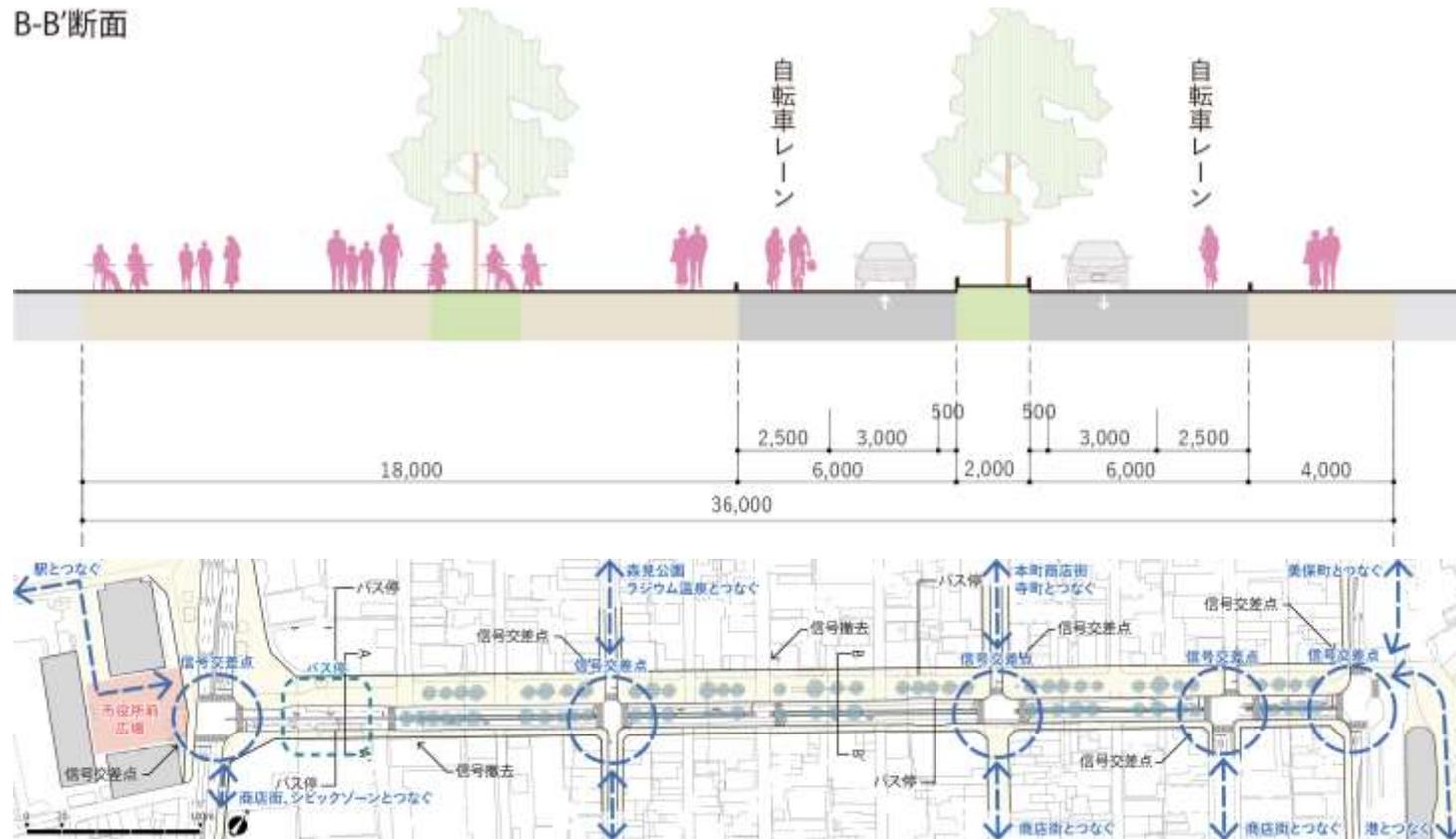
参考事例 中央通り (三重県四日市市)



引用：https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1684824663845/simple/gaiyouban.pdf

比較評価		参考	
まちづくり	シンボル性	△	偏心した道路構成のため、シンボル性を維持する工夫が必要
	活動・活用のしやすさ	△	北側に幅員18mの広幅員の歩道商店街との連携した活用が困難
	沿道・周辺エリアへの波及効果	△	北側の沿道建物の前の歩道が広くなり、一体的な利活用が商店街への波及効果が高い
	歴史・思想の継承	△	既存樹を生かしているものの、偏心した道路構成により市民広場と正対しない
交通	安全性／交差点処理	○	北側の広幅員歩道で安全性確保交差点がコンパクトになる
	自転車走行環境	△	自転車レーンを確保可能
環境形成・防災	グリーンインフラ	○	幅員18mの北側歩道にまとめて設置、通行・滞留機能との両立が必要
	緊急輸送道路	△	道路構成の偏心により車道と南側の建物との離隔がとりづらく、建物倒壊時の機能維持が懸念

B-B'断面



【D】中央緑道案

- ・ 車道10.0m(自転車レーン3.0m(1.5m×2)含む) / 緑道18.0m
 (緑道内の自転車道4.0m (2.0m×2)含む) / 北側歩道4.0m / 南側歩道4.0m
- ・ 既存の2列のクスノキ並木はともに緑道内に位置※自転車道と干渉する箇所で設えの工夫が必要
- ・ 現況と同じく左右対称の幅員構成
 クスノキ並木を含む広幅員の中央の緑道で広場と港をつなぐ

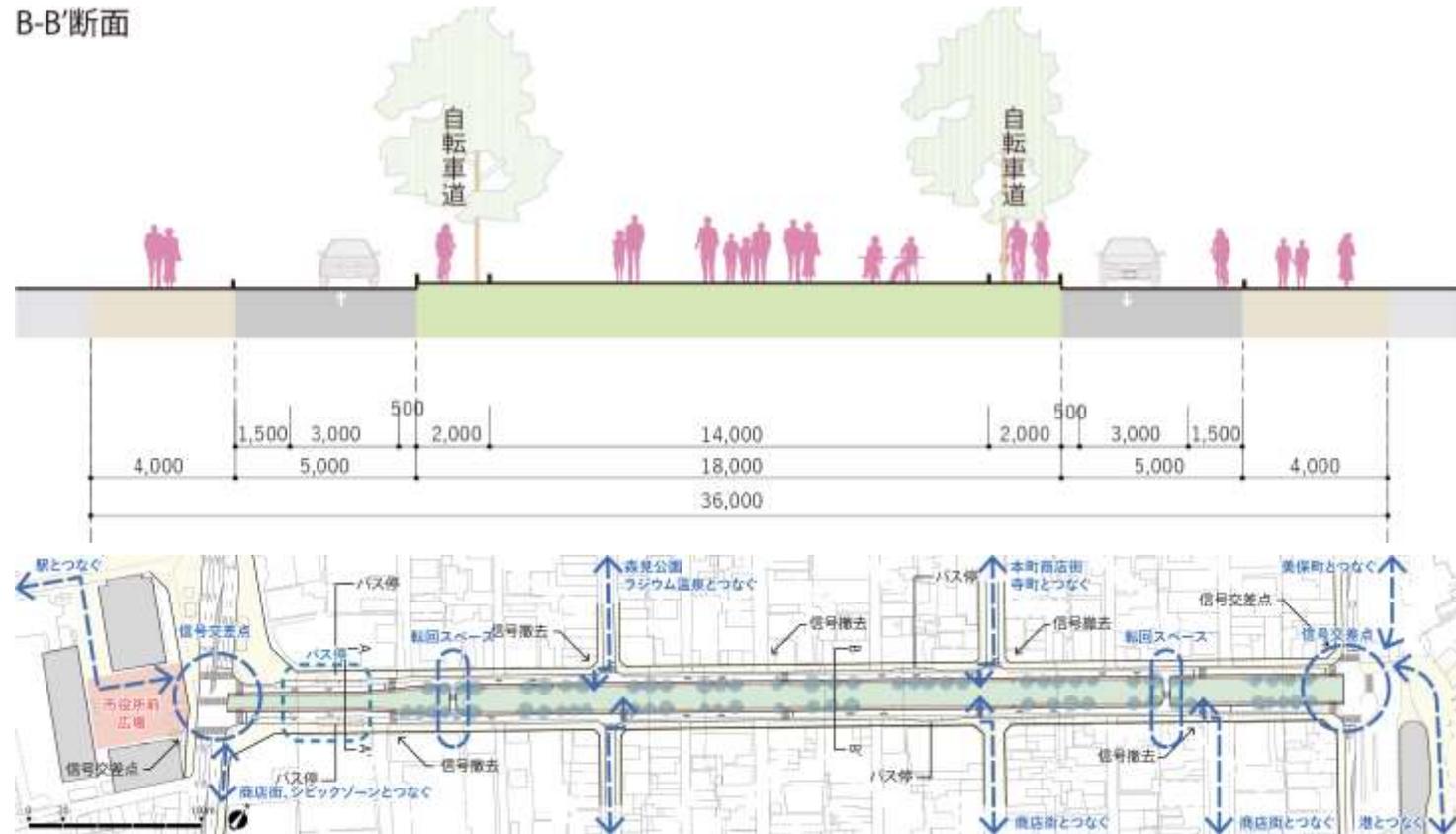
参考事例 定禅寺通り (仙台市)



引用：https://sendai-tushin.jp/2023/11/02/post-330758/
 https://rurubu.jp/andmore/article/17408

比較評価		参考	
まちづくり	シンボル性	◎	中央に広幅員の緑道を配置 既存樹木を生かした環境軸を形成し、広場と港をつなぐ
	活動・活用のしやすさ	○	中央に幅員18mの広幅員の緑道 パブリックスペースとして活用
	沿道・周辺エリアへの波及効果	△	シンボル空間として活用 沿道建物と車道で分離するため、 活用のための運用の工夫が必要
	歴史・思想の継承	◎	既存樹を生かした緑地帯(広場) で市民広場と港をつなぐ
交通	安全性/交差点処理	△	交差点が大きくなる 南北に直進する車は迂回が必要
	自転車走行環境	◎	緑地帯外側に自転車道を確保 B、C同様自転車レーンも可能
環境形成・防災	グリーンインフラ	◎	幅員18mの緑道内にまとめて設置、 歩道とは別で大規模なグリーンインフラの導入が可能
	緊急輸送道路	○	車道が沿道建物に寄るが、緑道の設え次第で建物倒壊時の機能維持が可能

B-B'断面



項目	意見要旨
<p>ネットワーク 空間特性と アクティビ ティ分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滞留時間の調査はしているのか。→今回の調査は時間的な連続性ではなく、分布状況の把握に主眼を置いたため、滞留時間は調査していない。 ・ 広小路から南北の道路に人の流れが動いているが、分析結果では通過と判断しているのか。→基本的には通過になるが、イベント時は滞留も確認できた。 ・ 調査時期が7月だったが、気温の影響はあるのか。→近年の夏季の昼間はかなり暑い。マルシェは夕方以降の開催であり、海に向かって風が抜けることもあり、快適に過ごしやすいことも結果に影響していると考えられる。屋根や緑陰はこれからますます重要になる。
<p>公共空間 デザイン戦略 (素案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共空間の活用として8か所挙げているが、整備順は決まっているのか。→グランドデザインの中で優先順位付けを考えているが、考え方としては今治港から今治駅に向かって進めていくことを検討している。 ・ 新たな回遊拠点の創出（青丸）の箇所、交差点周辺は民間か公共かどちらの整備を行うイメージか。→具体的に事業主体までは検討できていないが、広小路の整備パターンと合わせて検討が必要である。 ・ “現在の回遊動線を活かす”ということについて、道路の上に座っている滞留をどう活かすのか。交差点も信号で止まっているだけかもしれない。→人の滞留や行動を示すときに、まちが持っている空間特性と合わせて考察する必要があるため、今後その観点から分析を行う予定である。 ・ 市内・市外など、整備後のターゲットをエリアごとに分けることは考えられるか。特に広小路は県外の人をターゲットにしてもよいのではないかと。→“住んでいる人が住みやすいまち”だけでは波及する力が弱い。対外的にアピールするには、こういう場所があるなら行ってみたいというシンボル性は必要になるため、そういう意味ではターゲットを明確にすることも考えられる。

項目	意見要旨
<p>公共空間 デザイン戦略 (素案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • まちを歩いたときにどこに行くか迷っているということは、情報発信が足りていないのではないか。滞留と回遊を考えたときに、まず滞留できる場所に誘導し、次の滞留場所に誘導すれば回遊が始まると思う。→人流があれば、商売をする人も現れる。うまく空間を繋ぐことができればよい。 • 滞留場所の要因を考えたときに、例えば市役所周辺は用事があると思った。用事があるところをうまく点在させるべきである。→用事がある場所をつくることは重要で、そこから人をどう広げていくかが大事になる。 • 市役所からは一ぱりーは、車を出すまでもない距離間で、自転車で行くにはちょうど良い。ライドアンドウォークの考え方で、歩きたい人と、自転車の人で分けてもよいのではないか。 • 提案内容は、昼間・夜間のどちらの活動をイメージしているのか。→明確に分けて提案しているわけではない。ナイトタイムエコノミーはまちの理解がないと問題になるケースが多い。地域の方々とルールを決めるなどの取組が必要がある。
<p>広小路</p>	<ul style="list-style-type: none"> • D案（中央緑道案）の内容自体に反対することはないが、緊急輸送道路としての位置づけを考えた時に、現在の提案内容である車道幅員5mについて、バスやトラックが停車していても緊急車両が通り抜けできる幅員にする必要がある。【愛媛県】 • 今治駅前から市役所までの道路（今治停車場線）についてはどのような提案か。→駅の方はB案（南側歩道拡幅案）に近い提案で、今治停車場線は駅前広場と一体的に検討したいと考えている。→駅前のロータリーは非常に広く、広小路からの流れを封鎖しているイメージであったため、運用を見直した方がよいと考えていた。提案内容を実現できれば、視覚的にも行きたくなるようなきっかけになると思う。 • A案～C案だと、広小路沿道の土地利用の観点から建築物の接道が不利になると思ったが、問題はないのか。→荷捌きを含めた車両の出し入れが困難になるため検討は必要になる。令和8年度に実施予定の社会実験等で実証できればと考えている。

3. 【公共施設等再編部会】における検討内容

候補地Bにおける庁舎の合築を主軸としながら、参加希望団体との複合化の可能性について検討

■ 確認事項

- ・ 複合庁舎化への参画意向の把握
- ・ 複合化に向けた条件整理（整備パターン、土地建物の所有形態パターン）及び事業コストの算出
- ・ 複合化によりもたらされる効果等の整理
- ・ ボリュームの精査・モデルプランによる検証 など

関係機関ごとに個別協議を実施中



候補地Bの概要



現況写真

4. 今後のスケジュール

中心市街地全体まちづくり市民会議について

日時

11/30 (土)
13:00~16:00

会場

今治地域地場産業振興センター

計画の周知のほか、様々な団体からのまちづくりに関する発表や基調講演、パネルディスカッション等により計画のブラッシュアップを図る

→アンケートの実施により参加者の意向も把握

当日の様子やアンケートの集計結果については適宜共有予定

中心市街地まちづくり市民会議

11/30

13:00-16:00

つながる港町いまばり

参加無料

定員 120名 (先着順)
場所 今治地域地場産業振興センター (大ホール)

今治市では、中心市街地の魅力向上に向けて、「今治市中心市街地ブランドデザイン(まちづくり基本計画)」の策定を進めています。会議では、中心市街地の現状と課題、まちづくりの方向、計画ビジョンについて、多様な参加者と意見交換を行い、ブランドデザインへ貢献させることで、市民が一体となる「中心市街地まちづくり」を推進します。

参加方法

● 事前申込制 定員：120名

- 下記申込フォームからお申込ください。
- 申込フォームから申込みできない場合のみ、「お問合せ」へお電話でお申込みください。

申込期間 11/1(金)8:30~11/15(金)17:15

- 事前にお申込みいただいた方を優先いたします。
- 定員に達した時点で申込みを締め切ります。



12:30

開場・受付

13:00

あいさつ・プログラムの説明

13:15

まちづくりに関する発表

市内中高生や大学生、地域のまちづくりプレイヤーによるまちづくりに関する取組を発表していただきます。

14:00

中心市街地まちづくり(案)の説明

今治市の中心市街地は、今治港や今治城、丹下健三による建築群など「いまばりの顔」となる多くの地域資源を有しています。その一方で、モータリゼーションの進展に伴う郊外化等により、居住人口は減少し、まちの活力には低下がみられます。そこで、本市では中心市街地にある多様な資源をつなぎ、活かしていくための計画として、「今治市中心市街地ブランドデザイン(まちづくり基本計画)」の策定を進めています。

14:30

基調講演
「ストリートからの都市再生」



講師 三浦 詩乃氏
(中央大学 理工学部 都市環境学科 准教授)

博士(環境学)、東京大学大学院新学域創成科学研究科修士。専門は都市デザイン、公共空間のデザイン・マネジメント。主な著書に『ストリートデザイン・マネジメント：公共空間を活用する制度・組織・プロセス』(共著、学芸出版社、2019年)。

15:00

パネルディスカッション

ファシリテーター
羽鳥 剛史氏 (愛媛大学教授)

パネリスト
三浦 詩乃氏 (中央大学准教授)
大成 経凡氏 (今治短期大学地域連携センター長)
大木 鉄兵氏 (合同会社GTO代表)
今治市長

15:55

今後のスケジュールの説明

会場案内

お問合せ
今治市 総合政策部 企画政策課 魅力都市創生課
TEL 0898-36-1508



- ・ 次回は2/27（木）に開催予定

次回

